

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類	備考
ほ場率 (%)	発生ほ場数	3	0	22	0	7	25	7	0	1	総調査ほ場数: 51か所 総調査株数: 1,275株 (調査株数 25株)
	本年平均値	5.9	0.0	43.1	0.0	13.7	49.0	13.7	0.0	2.0	
	平年値	3.6	1.3	40.3	0.7	20.6	48.2	42.4	0.6	5.4	
	(本年平均値/平年値) × 100	163.9	0.0	106.9	0.0	66.5	101.7	32.3	0.0	37.0	
株率 (%)	発生株数	0	0	121	0	10	228	10	0	0	○今月の病害虫発生状況○ ・炭疽病が一部のほ場で散見されています。 ・うどんこ病の発生は平年並ですが、一部のほ場で発生が多い状況です。 ・ハダニ類の発生ほ場率は平年並ですが、発生株率が平年に比べ高くなっています。
	本年平均値	0.0	0.0	9.5	0.0	0.8	17.9	0.8	0.0	0.0	
	平年値	0.1	0.0	7.0	0.0	3.2	12.7	7.0	0.0	0.3	
	(本年平均値/平年値) × 100	0.0	-	135.7	-	25.0	140.9	11.4	-	0.0	
発生程度	やや多	少	平年並	少	平年並	平年並	やや少	少	やや少	少	
概 評	平年並	少	平年並	少	平年並	平年並	やや少	少	やや少	少	

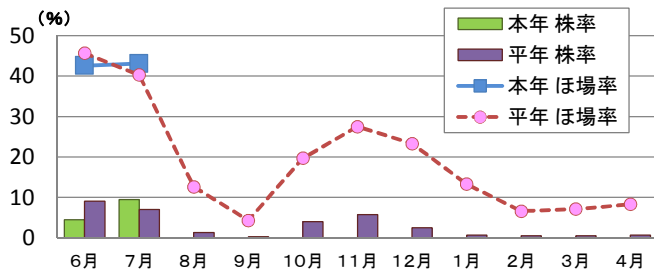


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

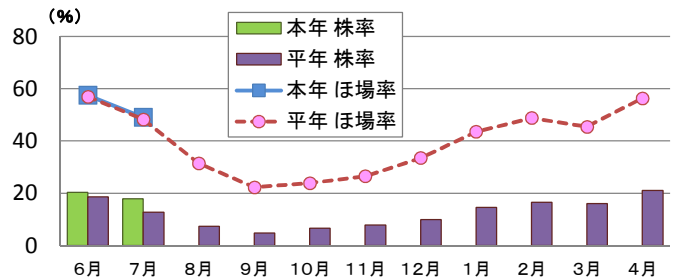


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

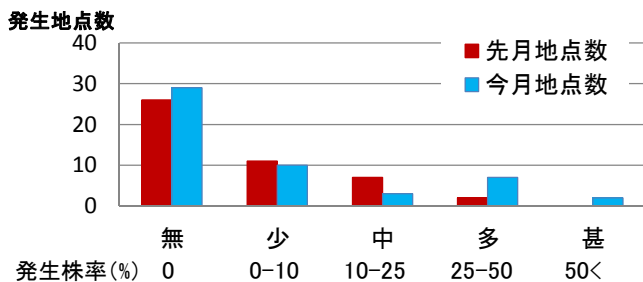


図3 発生程度別の地点数(うどんこ病)

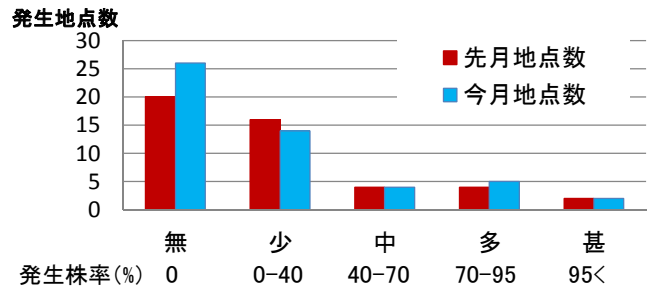


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

### ○うどんこ病対策

- ・生育に応じて葉かきを実施し、株の風通しを良くする。
- ・軟弱徒長すると発生が多くなるため、適正な温度管理やかん水を行う。
- ・本ほへの菌の持ち込みを防ぐため、予防を主体にペルクートフロアブル、フルピカフロアブル等を散布する。

### ○ハダニ対策

- ・雑草は発生源となるため、除草を徹底する。
- ・苗による本ほへの持ち込みを防ぐため、育苗床での防除を適正に行う。
- ・気門封鎖剤を活用し、有効薬剤を温存する。
- \* 当センターHPIに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」を掲載中。



写真1 炭疽病(斑点型病斑)

### ○今月の技術情報(技術指導班)○(7月)

- ・現在、一部の地域で炭疽病の発生が見られます。梅雨入り以降、高温傾向で大気の状態が不安定となり大雨や雷雨が続く、降水量は平年よりも多くなっています。このため、高温多湿状態となり、炭疽病が発生しやすい環境になっています。また、採苗後の活着不良や水冷夜冷育苗での多湿条件により、病気が発生しやすい環境となります。育苗床での発生、被害拡大がないよう、ほ場観察と発生予察情報を参考に防除意識を高めましょう。炭疽病は発病後の防除は困難なので、発生前から定期的な予防散布や、水の跳ね返りがないかん水を行うなど、発病しにくい管理を行いましょう。
- ・一方、うどんこ病は少ない状況にありますが、気温が低下してくる秋以降の再発をなくすため、夏期にも予防を継続することがポイントです。
- ・害虫では、ハダニ類がやや多くなっています。育苗期間中に徹底した防除を行い、本ほに持ち込まないようにしましょう。また、親株床のみでなく、ほ場周辺の環境整備を行い、密度を減らすための防除も行いましょう。
- ・薬剤散布は葉裏へも薬剤液がしっかりかかるよう丁寧に散布し、防除効果が高まるようにしましょう。